

会議名	第2回坂出市まちづくり基本構想審議会
開催日時	平成27年10月23日(金) 午前10時～12時20分
開催場所	坂出市水道局3階大会議室
出席委員	尾崎 健, 新谷 五十雄, 明石 正子, 宮崎 泰徳, 河合 博一, 久保 勝是, 宮川 崇, 斉藤 恵子, 高塚 創, 木原 光治, 土井 智司, 中橋 恵美子, 大林 貞治, 三野 八重子, 篠原 光一, 山本 淳一
欠席委員	井上 徹, 町川 博俊, 國時 忠能, 赤尾 康造

会議の経過および発言要旨

1. 開会

●事務局

定刻がまいりましたので、第2回坂出市まちづくり基本構想審議会を開会いたします。

(事務局より、坂出市地方労働組合連盟 会長 林美模 委員が病氣療養のため、大林 貞治 同事務局長が代理出席する旨の報告)

2. 審議

(1) 坂出市人口ビジョン(案)について

●会長

それでは、次第に基づきまして、審議を進めてまいりたいと存じます。

まずはじめに、条例施行規則第6条第4項の規定に基づき、これまでの分科会での審議の経過および結果について、高塚分科会長より、報告をいただきたいと存じます。高塚分科会長、よろしくお願ひします。

●分科会長

それでは、分科会における審議の経過および結果について報告します。

分科会では、坂出市人口ビジョンおよび坂出市まち・ひと・しごと創生総合戦略につきまして、8月25日に骨子案について、また、10月6日に素案について慎重に審議を行い、非常に活発な議論が交わされたところでもあります。

審議の過程におきましては、事務局案に対し、「もっと坂出らしさを出すべき」など、非常に多くの貴重な意見が示されました。その結果、先の7月22日に開催された第1回審議会で示された総合戦略の施策体系案を大幅に修正したことをはじめ、文章表現等につきましても、大幅な加筆修正を行ったうえで、坂出市人口ビジョン(案)および坂出市まち・ひと・しごと創生総合戦略(案)をとりまとめたものであります。

以上、審議経過の概要を報告させていただきまして、詳細については、事務局より説明いたします。

●委員

ありがとうございました。

続きまして、まず、坂出市人口ビジョン(案)について、事務局の説明を求めます。

●事務局

(説明)

●会長

ただ今の説明について、ご質問・ご意見等はございませんか。

●委員

事務局の説明を聞いて、20代から40代の若者の雇用が大事だと痛感した。坂出市の若者や地元の中小企業が活発になって、若い人が働けて、住みたくなるまちになってほしい。

諸外国の例として、スウェーデンでは、就労環境と子育て支援環境が充実している。子どもが8歳になるまで400日もの間、子育てのための休暇が取れるようになっており、90%の給与保障がある。

女性が働けて、就労環境が充実し、きちんと子育てできる環境や休暇・給与保障があり、男女ともに安心して子育てのために休暇が取れるような環境の整備をしていかないと、出生率は上がらない。そういったことから、女性の就労環境を整えていくべきと思う。

●委員

人口ビジョンの33ページに坂出市の「強み」と「弱み」に関する記述があるが、「弱み」に関する記述は他の自治体にも当てはまるような内容になっている。坂出市の独自の弱みを分析して書き込んでほしい。

坂出市には大学がないことが弱みであり、そのことを踏まえ、例えばサテライト授業を坂出で実施する等の展開も考えられると思う。商店街の賑わいに関する問題もあると思う。若者が行きやすい店舗はかなり少ない。そういったことを弱みとして書いてもよいのではないか。

また、NPOの数や自治会の加入率なども、近隣自治体と比べると低いのではないかな。

●委員

国外に対する部分が触れられていない。坂出市を訪れる観光客には海外の方もいると思う。知人が一昨年、リオデジャネイロで講演を行ったところ、ブラジルから坂出市に観光客が来たらしい。

結果として人口が増えるのであれば、海外に対する視点もあるかと思うので、盛り込めるのであれば盛り込んでもらいたい。

●事務局

地元の商工業の活性化については、ごもつともである。まちづくり基本構想等の中で対応できればと思う。

出生率の向上に関しては、外国の例も挙げられていたが、国全体で統一的に施策を打ち出す必要があると思う。もちろん、市独自の子育て支援対策についても検討していくので、まちづくり基本構想の審議でご意見を頂きたい。

本市の弱みの部分に関しては、事務局で委員のご意見を検討し追記する。大学がないと言うご意見もあったが、大学自体を誘致するのは、現状では現実的ではない。一方で、本市は香川大学や神戸芸術大学と包括連携協定を結び、さまざまな取組を進めている状況である。

NPOや自治会に関してのご意見もあったが、自治会加入率に関して、坂出市は周辺の自治体と比べても、そこまで低いとは認識していない。

海外に対する視点に関して、観光の視点で言えばインバウンドといった話があり、最近では中国からの観光客が非常に多いという話もある。定住人口だけでなく、交流人口の増加も本市の活性化につながると思うが、まちづくり基本構想の審議でも検討していければと思う。

●副会長

人口ビジョン9ページの昼夜間人口率に関して、四国では第1位の水準になっているとあるが、この昼夜間人口の格差に着目して、定住人口を増やす手段を考えるべきだと思う。商工会議所の会員数や企業数も減っており、それを増やすにはどうしたらよいか。

人口増の方法としては、空き家対策の強化があると思う。空き家を住めるようにすべきである。三豊市では200万円を上限に空き家改修に対する補助を行っており、住んでもらうための施策が行われているので、坂出市でもそういった取組が必要だと思う。

また、坂出市はマンション等が少ないという説明もあったが、増やすためにどうすべきかを検討すべきだ。

●委員

昼夜間人口率は、非常に重要なポイントである。人口増に関して重要な切り口になると思う。坂出市に通勤・通学している人のうち6,000人は、坂出市に住むことを選んでいない。分科会でも2060年の目標人口42,000人の実現は厳しい、大きすぎる目標ではないかという意見もあったが、この6,000人が坂出市を選び、住んでもらえれば、決して実現は難しくはないと思う。

この人たちが、どういう理由で住まないのかといったことや、他の委員から意見もあったが、坂出市の弱みをはっきりと明確に調査して、環境を整備していくべきだと思う。

(2) 坂出市まち・ひと・しごと創生総合戦略(案)について

●会長

次に、坂出市まち・ひと・しごと創生総合戦略(案)について、事務局の説明を求めます。

●事務局

(説明)

●会長

ただ今の説明について、ご質問・ご意見等はございませんか。

●委員

最後のページの『おわりに』のところで、「市民、民間企業者、行政が相互に連携・協力しながら、人口減少の克服と地域活力の向上を実現する強い決意を持って」とあるが、全国の例をみると、地域経済の担い手に関しては、大きな企業よりも地元の農業、商業、零細業者などが地域経済を担い、大きな役目を担うものだと思う。

坂出市の弱みとして、第1回審議会の資料である「現況調査報告書(概要)」の分野別の統計⑤の中で、坂出市の卸売、小売、製造品出荷額、農家数などは減少している状況であり、そういった状況を踏まえて、どのようにすれば、それらが良くなっていくのかを検討し、向上するための取組を進めてもらいたい。

提案として、市民、民間企業者、行政にプラスして、金融機関も含めて、中小企業振興条例をつくって頂きたい。条例をつくっても機能していない例もあるので、ぜひ審議委員としてさまざまなメンバーを募り、それぞれの役割を明確にして、さまざまな地域の資源を掘り起こして、まちの活性化について議論してもらいたい。

高知県の馬路村では、地元のゆずを活用して「ごっくん馬路村」を開発し、成功している。地元の資源である、ゆずと森をうまく活用した例である。

坂出市においても、坂出三金時、塩田の塩作りなどを活用したまちづくりを展開するなど、行政がもっと支援していけば、ブランド化しながら、流通の向上などにもつながると思う。

中小企業振興条例をつくって、坂出市の良さを生かしたまちづくりを考えてもらえればと思う。

●委員

総合戦略に企業誘致についての記述はあるが、起業についての記述がない。起業したい人たちが、もっと起業したくなるような状況になれば良いと思う。

大学がないといった意見もあったが、IT業界が充実してきているので、可能であれば、高校卒業後、坂出市で起業して事務所を設けることができる環境を整えれば、若者の流出を防げるのではないかと。また、雇用にもつながると思う。

坂出市の弱みに関する意見があったが、我々の世代では、坂出に買い物にいけないというイメージがない。坂出市のプレミアム付き商品券「まろプレ」の売れ行きが悪かった状況から考えると、「まろプレ」に対する購入意欲がなかったのではないかと。広報の問題が影響していたのかもしれないが、そういったことも含めて、坂出市の「弱み」として記述してはどうか。

●委員

4ページの「基本的考え方」の中で、『働きたい 住みたい 子育てしたいまち』づくりを共働して考えていこうということが書かれているが、子育てしたいに関連して、坂出駅周辺や学園通りの整備は、非常に大事なことだと思う。

駅前に広場があるのに、子どもの声が普段はあまり聞こえない。イベントのとき以外でも、楽しめたり、お年寄りが散歩できる場所にするため、今後みんなで考えていくべきだと思う。

●委員

第1回審議会のときと比べて、基本目標が整理されているように思う。「住みたい」

や「選ばれる」という、住民の目線からどんなまちであってほしいかということが、明確化されたことでわかりやすくなったと思う。若者たちが、坂出市を選ぶ基準になるのではないかと思う。

人口ビジョンの4ページで、大学進学や就職のときに若者が出て行っているが、ある年齢になると就職等で戻って来ていることがわかった。出て行った数だけ戻って来てくれば、人口は減らず維持できるのではないか。そのために教育面でできることは、自分のまちを愛することであり、隣近所の人との関係性を濃くすること等がある。そのような心が、坂出市に戻ってきたくなる源になるのではないか。

市外で働いていても、「坂出っていいところだったな」と思い、帰って来てくれる人もいると思う。そういう人たちを育てるために、学校の先生はもちろんのこと、地域の方々が学校支援ボランティアとして、地域と密着した教育を行っている。教育としては「知」に関することは大事だが、生活する上での「生きていくこと」や「愛すること」などに対しても、周りの大人が支援している状況にあり、非常に感謝している。子ども達が、大人に助けられたことを覚えていて、それを活かしていけるようなつながりのある教育を進めていければと思う。

また、坂出市では、高校生が行っているさまざまな取組も魅力的である。小学校5・6年生は、彼らの姿に憧れている。上級生が下級生に憧れられるような環境をつくることで、循環していくと思う。子ども達が坂出から出て行ったとしても、自分のまちを自分たちで守るというかたちになっていったら良いと思う。

なお、総合戦略の中の教育の部分に関して、KPIはどのような基準で選ばれているのか。将来的に子ども達が定住するための内容がこれで良いのかどうか、もう一度精査しても良いのではないか。

●委員

分科会でも意見を述べさせてもらい、それを形にして頂けたと思っている。将来人口の目標を高く設定していることから、おそらくやる気がなければ達成できないと思う。トップのやる気がすべてである。坂出市は「やる気がある」と、国に示すようにしていくべきだと思う。

●委員

坂出市の強みと弱みに関して、坂出の魅力といえば「瀬戸大橋」があると思う。イベントも多く行われている。また、香川県の中でも坂出市は災害が少ないことも挙げられる。塩田によって栄えたといった歴史もある。

人口増加を目指すうえでは、女性が子どもを生み育てられる環境づくりから手掛けていけば良いのではないかと。

●副会長

総合戦略11ページの「空き家バンクサイトの登録数」の目標が低いと思う。現時点でも16件しかない。現在、坂出市の空き家は2,800件くらいあると思う。移住・定住を促進するためには、住むところが必要だと思う。市立病院の跡地活用も含めて、居住環境の整備を進めていくべきだと思う。

2点目は、婚活に力入れるべきだと思う。結婚してもらわないと子どもは生まれない。特に40歳前後の人の支援や協力をお願いしたい。

3点目は、企業誘致である。企業と求職者のミスマッチが起きている。宇多津にイオンが出来るが、人手不足のようだ。ハローワークの所長と話したが、基本的にはパートで補っており、雇用が進んでいない。企業誘致も大事だが、人手不足が起きている状況を何とかする必要があると思う。

●委員

小規模の会社は、雇用の役割を担っている。例えば、会社を創業した場合、平均的には4人くらいで創業する。ところが、3年後は5人以上に増えていることがよくある。5人未満の小さな会社は従業員を雇っているが、大きな企業ほど、非正規社員に置き換えたり、海外進出して縮小や撤退をする。小さな企業が頑張ることで、地元の商店街や商工業者が活性化していけば、流通が始まり、地域内循環が始まることあると思う。災害が起きた場合にも、地元の建設会社や水道会社が元気であれば、早く復旧できる。阪神・淡路大震災でもそのような例がある。

市長が出前ミーティングで各地域に出ているが、もっと小さな単位で実施してはどうか。住民が主体となって自分のまちを見直し、「自分たちで自分たちのまちを見直していく」という自覚を行政が支援すれば、地域が活性化するのではないかと。コミュ

ニケーションできるような話し合う場をもっと支援していけば、共働のまちづくりの展開につながると思う。

●委員

結婚しない人が多いことが不安である。市民みんなで結婚を推進するために、こういう男性・女性を知っているという情報を持ち寄り、総合的にお見合いをするような場をもっとみんなで作るような機運を作ることが大事だと思う。

みんなで協力しあって結婚できるような活動を行えば、子どもが増え、人口が増えるのではないか。

●事務局

さまざまなご意見を頂いたが、市立病院の跡地については案が出ているわけではないので、ご理解いただきたい。

●事務局

委員の皆様のご意見に可能な範囲でお答えしたい。

人口ビジョンは2060年の目標人口を示すものであるが、いま議題となっている総合戦略は、人口対策に関して、この5年間でどう取り組むかといった基本的な考え方を示すものであり、多くのご意見を賜ったが、反映できるものは限られてくると考えている。今後の審議会では、まちづくり全体を考える10年間の計画となる、まちづくり基本構想をご審議いただくが、そこに反映していくことも検討できればと思う。

総合戦略については、10月中に策定すればいくらかの交付金が出るということ、10月中の策定を目指すということから、期限があるのでかなり制約があるということを予めご理解賜りたい。

坂出市の強みに関してもご意見を頂いたが、精査して可能な範囲で対応したい。災害に関して、「坂出は災害がない」とは言えないので、比較的少ないといった表現をしたい。教育に関連するKPIに関しては、数値目標として馴染むものと馴染まないものがあり、苦心した結果が記載している目標になっている。

また、結婚を切り口に様々なご意見も頂いた。「なぜ結婚しないのか」、「どうしたら結婚してもらえるのか、子どもを産んでもらえるのか」といったこともあるかと

思う。出会いの部分も大事だが、子育てしやすい環境や住環境がないということが、一番の課題ではないかというご意見もあった。

当初は雇用に関する内容を一番目の基本目標としていたが、分科会でもご議論いただいた結果、まずは住んでもらわないと企業も来ないのではないかということから、住んでもらえるまちづくりを一番目に持ってきた経緯もある。

●会長

それでは、質疑等も終了いたしましたので、取りまとめをいたしたいと存じます。

去る7月22日に市長より当審議会に諮問のありました「坂出市まち・ひと・しごと創生総合戦略(案)」および、それと密接に関連いたします「坂出市人口ビジョン(案)」につきましては、分科会にて取りまとめをお願いしたところでございます。まず、本日、説明のありました両案について、事務局案のとおり、ご了承いただけますでしょうか。

(委員一同承認)

ご異議がないようですので、了承することに決しました。

次に、当審議会に諮問されております「坂出市まち・ひと・しごと創生総合戦略(案)」について、これまでの審議会や分科会での様々なご議論も踏まえ、当審議会としての意見を付して、答申をいたしたいと存じますが、ご了承いただけますでしょうか。

(委員一同承認)

ご異議がないようですので、審議会としての意見を付して答申することといたします。答申(案)作成のため、暫時、休憩いたします。

～ 休 憩 ～

3. 答申

●会長

それでは、再開いたします。

答申(案)について、事務局より説明願います。

●事務局

(答申案を朗読)

●事務局

今後、当審議会では、10か年の計画であるまちづくり基本構想を審議していただくが、その素案に本日出された意見を勘案するとともに、当審議会でも改めてご議論を賜りたい。必要な見直しも行っていきたいと考えている。

●会長

ただ今の文案をもちまして、当審議会の答申書とすることよろしいでしょうか。

(委員一同承認)

それでは、承認されたものとして市長に答申書をお渡しすることといたします。

(会長より市長に答申書を手渡す)

(市長より、お礼の挨拶)

4. その他

●会長

次に、その他で何かございますか。

●事務局

今後の予定でございますが、「坂出市人口ビジョン(案)」および「坂出市まち・ひと・しごと創生総合戦略(案)」につきましては、今月27日に議会にご報告申し上げたうえで、今月中に、市において成案として取りまとめてまいります。

また、委員の皆様におかれましては、引き続き市政の最上位の方針となります「坂出市まちづくり基本構想」につきましては、ご審議賜りたいと存じますので、よろしくお願いいたします。

5. 閉会

●会長

それでは、時間も相当経過しておりますので、本日の審議会はここで終了させていただきます。

なお、次回の審議会につきましては、後日、事務局より案内状を送付させていただきますので、よろしくお願いいたします。

以上で、第2回 坂出市まちづくり基本構想審議会を終了いたします。ご協力、ありがとうございました。